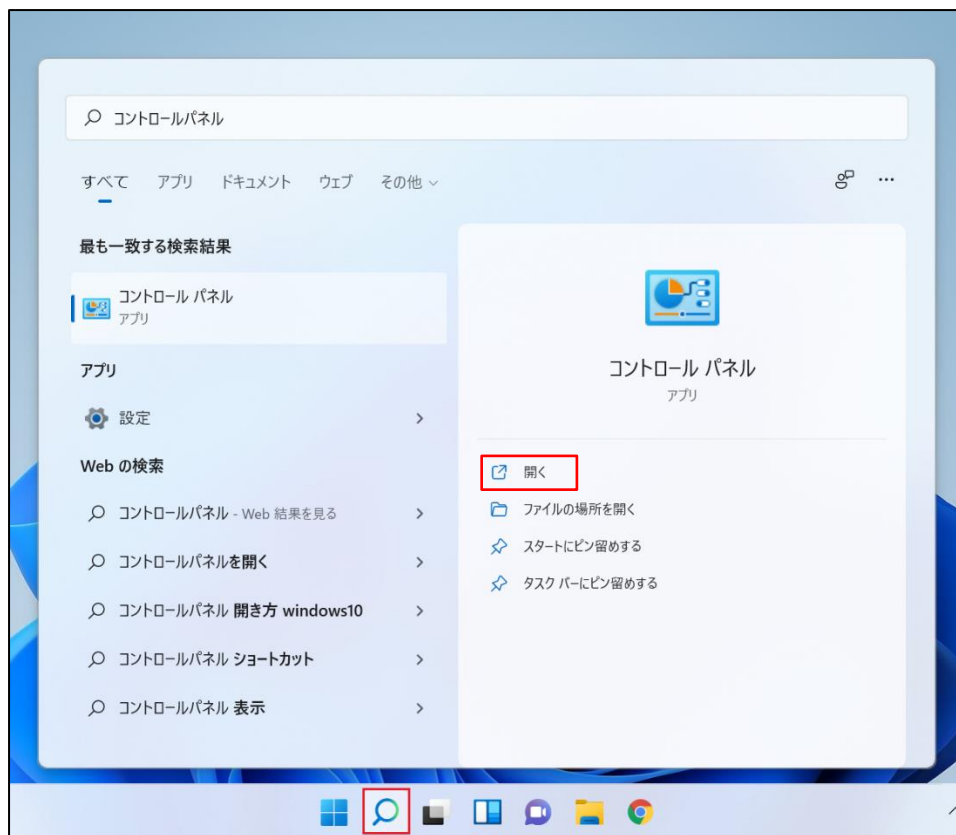


無線 LAN 接続マニュアル(Windows11)

- ① タスクバーの虫眼鏡アイコンをクリックし[コントロールパネル]と入力し、[開く]をクリックします。



- ② [ネットワークとインターネット]をクリックします。



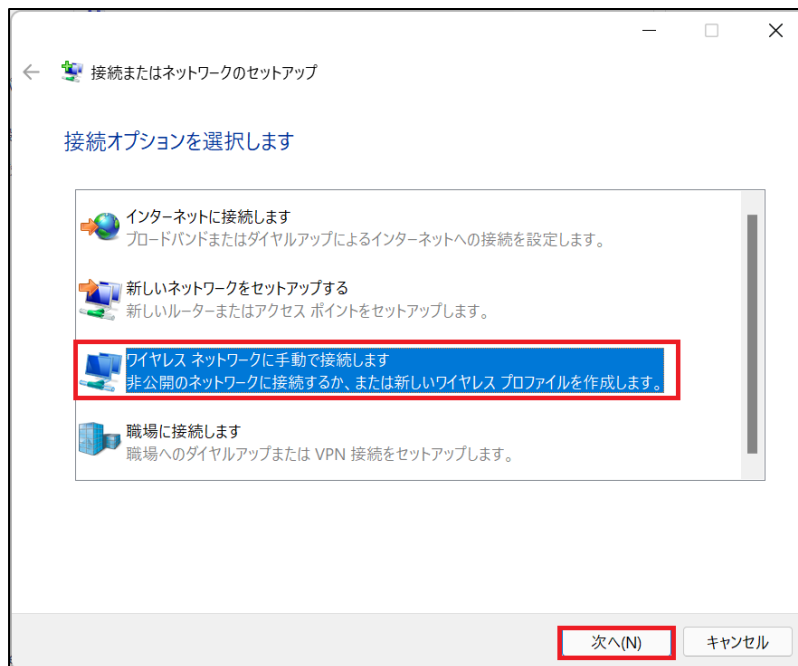
- ③ [ネットワークと共有センター]をクリックします。



- ④ [ネットワークと共有センター]で[新しい接続またはネットワークのセットアップ]をクリックします。

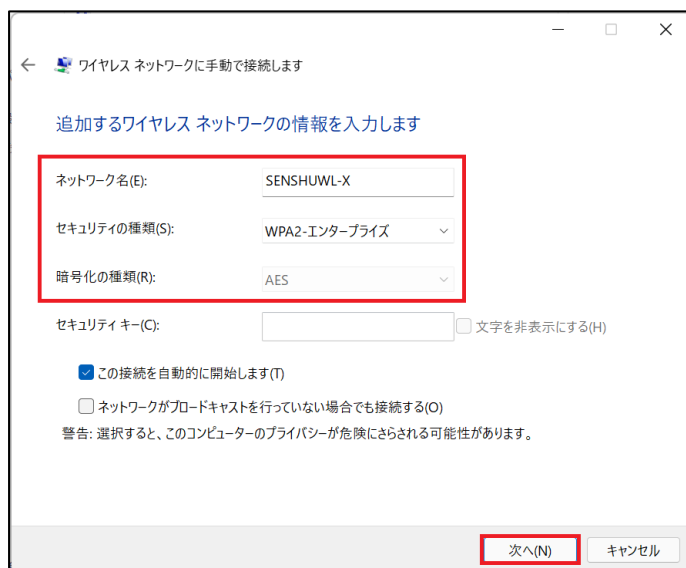


- ⑤ [ワイヤレス ネットワークに手動で接続します]を選択し、[次へ(N)]をクリックします。

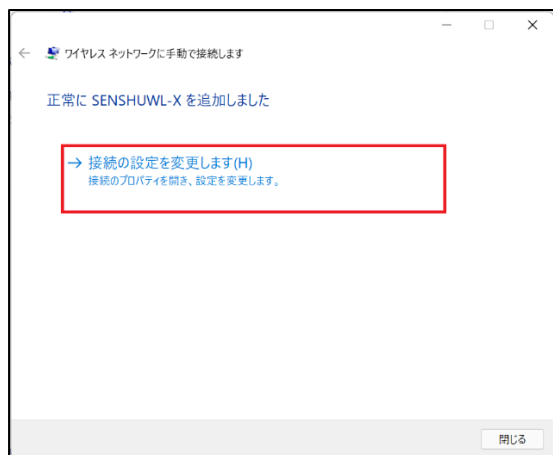


- ⑥ 以下の通りネットワーク情報を入力し、「次へ(N)」をクリックします。

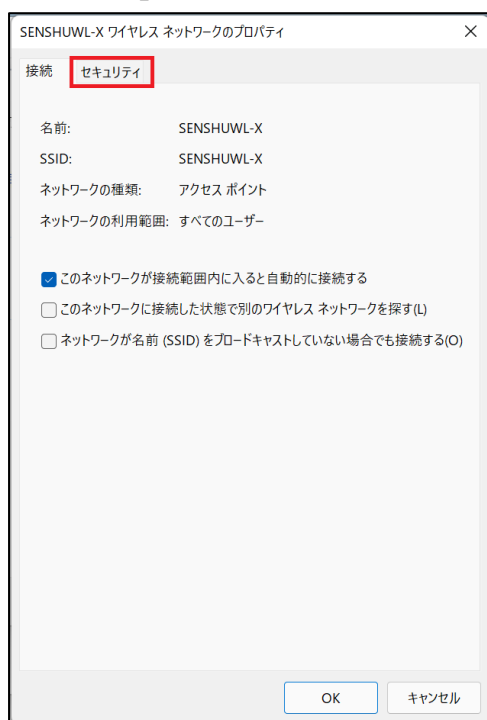
ネットワーク名	SENSHUWL-X
セキュリティの種類	WPA2-エンタープライズ
暗号化の種類	AES



- ⑦ 「接続の設定を変更します(H)」をクリックします。



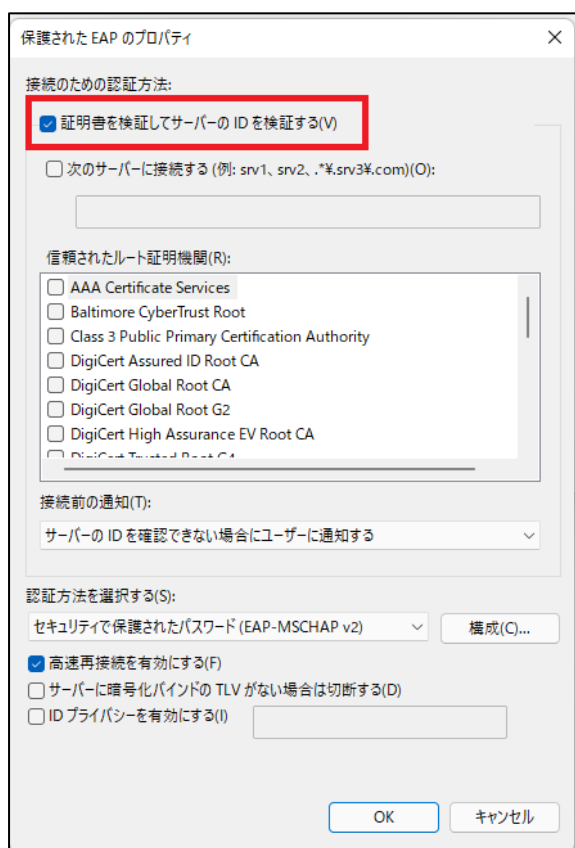
- ⑧ 「セキュリティ」タブをクリックします。



- ⑨ 「ネットワークの認証方法の選択(O):」で「Microsoft:保護された EAP(PEAP)」が選択されていることを確認し、「設定(S)」をクリックします。



- ⑩ [保護された EAP のプロパティ]画面で「証明書を検証してサーバーの ID を検証する(V)」にチェックを入れます。



- ⑪ 「Security Communication Root2CA2」にチェックを入れます。

保護された EAP のプロパティ

接続のための認証方法:

☒ 証明書を検証してサーバーの ID を検証する(V)

☐ 次のサーバーに接続する (例: srv1、srv2、.*%.srv3%.com)(O):

信頼されたルート証明機関(R):

- ☐ Microsoft Root Certificate Authority 2011
- ☐ Microsoft Time Stamp Root Certificate Authority 2014
- ☐ Security Communication RootCA1
- ☒ Security Communication RootCA2
- ☐ Starfield Class 2 Certification Authority
- ☐ support
- ☐ Symantec Enterprise Mobile Root for Microsoft
- ☐ VeriSign Class 3 Public Primary Certification Authority

接続前の通知(T):

サーバーの ID を確認できない場合にユーザーに通知する

認証方法を選択する(S):

セキュリティで保護されたパスワード (EAP-MSCHAP v2) 構成(C)...

☒ 高速再接続を有効にする(F)

☐ サーバーに暗号化バインドの TLV がない場合は切断する(D)

☐ ID プライバシーを有効にする(I)

OK キャンセル

- ⑫ 「セキュリティで保護されたパスワード(EAP-MSCHAP V2)」を選択します。

保護された EAP のプロパティ

接続のための認証方法:

☒ 証明書を検証してサーバーの ID を検証する(V)

☐ 次のサーバーに接続する (例: srv1、srv2、.*%.srv3%.com)(O):

信頼されたルート証明機関(R):

- ☐ Microsoft Root Certificate Authority 2011
- ☐ Microsoft Time Stamp Root Certificate Authority 2014
- ☐ Security Communication RootCA1
- ☒ Security Communication RootCA2
- ☐ Starfield Class 2 Certification Authority
- ☐ support
- ☐ Symantec Enterprise Mobile Root for Microsoft
- ☐ VeriSign Class 3 Public Primary Certification Authority

接続前の通知(T):

サーバーの ID を確認できない場合にユーザーに通知する

認証方法を選択する(S):

セキュリティで保護されたパスワード (EAP-MSCHAP v2) 構成(C)...

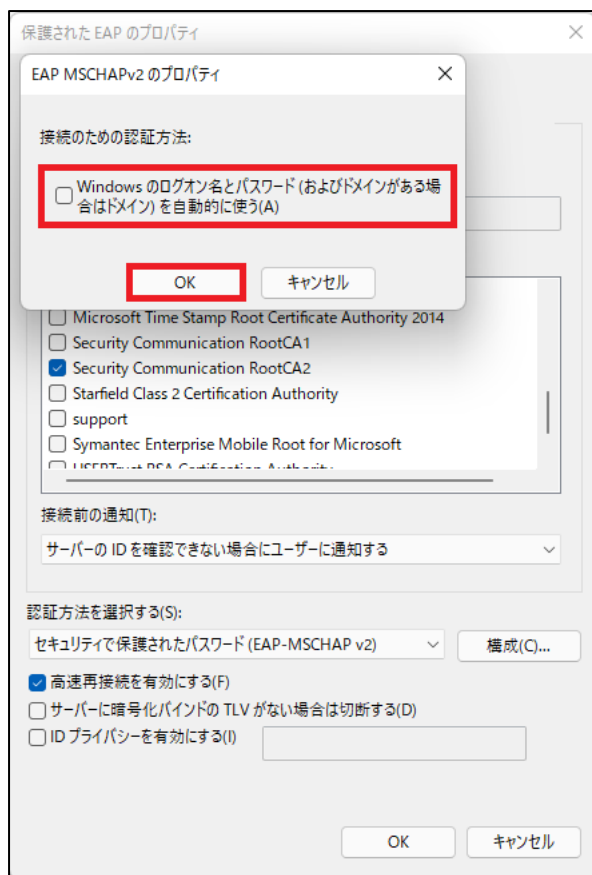
☒ 高速再接続を有効にする(F)

☐ サーバーに暗号化バインドの TLV がない場合は切断する(D)

☐ ID プライバシーを有効にする(I)

OK キャンセル

- ⑬ [EAP MSCHAP v 2 のプロパティ]のウィンドウが出るので、
[Windows のログオン名とパスワード(およびドメインがある場合はドメイン)を自動的に使う(A)]
のチェックを外し、[OK]をクリックします。



- ⑭ ⑧のセキュリティタブに戻り、[詳細設定(D)]をクリックします。



- ⑮ [802.1X の設定]タブの[認証モードを設定する(P)]にチェックを入れます。

詳細設定

802.1X の設定 802.11 の設定

☒ 認証モードを設定する(P):

ユーザーまたはコンピューターの認証 ▼ 資格情報の保存(C)

☐ すべてのユーザーの資格情報を削除する(D)

☐ このネットワークに対するシングルサインオンを有効にする(S)

☒ ユーザー ログオンの直前に実行する(E)

☐ ユーザー ログオンの直後に実行する(F)

最大待ち時間 (秒)(M): 10

☒ シングル サインオン中に追加のダイアログの表示を許可する(L)

☐ このネットワークでは、コンピューターとユーザーの認証に別の仮想 LAN を使用する(V)

OK キャンセル

- ⑯ [ユーザー認証]を選択し、[OK]をクリックします。

詳細設定

802.1X の設定 802.11 の設定

☒ 認証モードを設定する(P):

ユーザー認証 ▼ 資格情報の保存(C)

☐ すべてのユーザーの資格情報を削除する(D)

☐ このネットワークに対するシングルサインオンを有効にする(S)

☒ ユーザー ログオンの直前に実行する(E)

☐ ユーザー ログオンの直後に実行する(F)

最大待ち時間 (秒)(M): 10

☒ シングル サインオン中に追加のダイアログの表示を許可する(L)

☐ このネットワークでは、コンピューターとユーザーの認証に別の仮想 LAN を使用する(V)

OK キャンセル

- ⑰ [SENSHUWL-X ワイヤレス ネットワークのプロパティ]画面で[OK]をクリックします。



- ⑱ [ワイヤレスネットワークに手動で接続します]画面で[閉じる]をクリックしたら完了です。

